



舞台上ではドタバタ劇が展開されました

## 宮古市との交流深める

### 第16回てらだ公民館まつり

第16回てらだ公民館まつりが3月8、9の両日、寺田公民館で開かれました。  
まつりには、姉妹都市の宮古市から39人を招待。本市の皆さんと一緒に、伝統芸能や輪投げなどを楽しみました。9日には、寺田喜劇団の団員約20人が第12回公演「寺田駐在所物語」を熱演。劇中では、郵便局強盗の場面で、宮古市の方に急きょ人質役になってもらうと、その方が見事にアドリブで演技し、会場には笑い声があふれました。

## 冷静な心で熱戦を展開

### 第2回八幡平エンジョイ雪合戦大会

第2回八幡平エンジョイ雪合戦大会が3月1、2の両日、サラダファーム特設会場で行われました。  
大会は、一般参加の「本気」、男女混合チームの「ミックス」、小学生チームの「キッズ」の3部門に分けられ、計42チーム約400人がエントリー。大会では、作戦を立て、雪玉の数を温存するチームや相手チームの旗を大胆に取りにいくチームなど、手に汗握る熱戦が繰り広げられ、見学者は一つ一つの試合に歓声を上げていました。



様子を見ながら好機をうかがう雪合戦大会参加者

## 貴重な海外生活を経験

### 平舘高校生徒が海外派遣事業の成果を報告

海外派遣事業を終えた平舘高校の生徒6人が3月17日、市役所を訪れ、その成果を田村正彦市長に報告しました。  
生徒たちは、2月末から約2週間、アメリカ・オレゴン州でホームステイをしながら、地元の高校に通学。報告会では、文化の違いに触れたことにより、「積極性を持つことが大事」「日本の良さを再認識した」などといった感想が出され、生徒たちは、この体験を今後に活かしていくことを誓っていました。



田村市長(手前)に海外派遣の報告をする平舘高校の生徒



街道を通じてのイベント共催なども提案されました

## まちづくりの夢広がる

### 鹿角街道まちづくりシンポジウム

鹿角街道まちづくりシンポジウムが3月2日、市若者総合活動センターで開かれました。  
シンポジウムには、市民の皆さんなど約80人が来場。街道を生かしたまちづくりの事例紹介として、山形、宮城、秋田各県の団体が活動の様子を発表し、参加者は、その内容に聞き入っていました。その後、発表者と市内の団体代表者らを含めてパネルディスカッションも行われ、今後の鹿角街道を活用した取り組みについて議論が交わされました。



新しいバスの前で記念撮影するワークサポート蓮華利用者の皆さん(同事業所提供)

## 新しいバスありがとう

### 日本財団からワークサポート蓮華へバス寄贈

日本財団から、障害者就労継続支援事業所「ワークサポート蓮華」(田頭)に送迎用の29人乗りのバスが寄贈され、3月3日、納車されました。  
「ワークサポート蓮華」では、障がい者の方に就労機会を提供するとともに、生産活動を通じて、生活能力の向上を目指しています。事業所の利用者は31人で、バスでの送迎が欠かせません。三浦哲也施設長は、「利用者からも乗り心地がいいと喜ばれています。大事に使います」と、感謝を述べていました。

## 立派な自衛官目指して

### 市自衛隊入隊予定者激励会

市自衛隊入隊予定者激励会が3月15日、西根地区市民センターで開催されました。  
当日は、市内出身で、自衛隊に入隊予定の5人中4人が出席。保護者や関係者ら約40人が、入隊予定者の今後の飛躍を祈りました。式典では、先輩隊員から激励の言葉が送られたほか、4人を代表して田村克樹さん(18)＝松川＝が、「国や地域の皆さんの役に立てる自衛官になりたいと思います」と、力強くあいさつしました。



代表してあいさつする田村克樹さん(写真中央)

## すなっぷギャラリー



発表会で演武を披露した西根太極拳サークルの皆さん(3月2日、大更コミュニティセンター)



松尾地区チャリティー芸能発表会では美声が響き渡りました(3月8日、松尾地区コミュニティセンター)



3年間の集大成として、合唱を披露する卒業生(3月12日、松尾中学校)



校長先生から一人一人に卒業証書が手渡されました(3月12日、西根中学校)



卒業式が終わり、退場の際、担任の先生と笑顔で握手(3月18日、松野小学校)